

BMW Cultural Communications.

プログラムの詳細



BMW の文化交流 国際交流への取り組み

BMW Cultural Communications



建築・デザイン



クラシック・コンサート

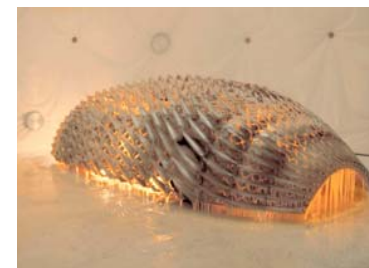
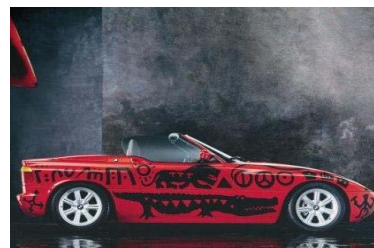
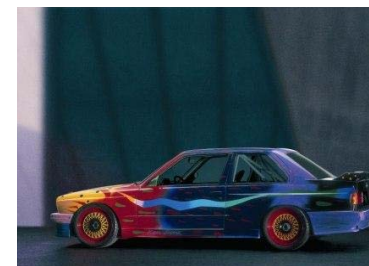
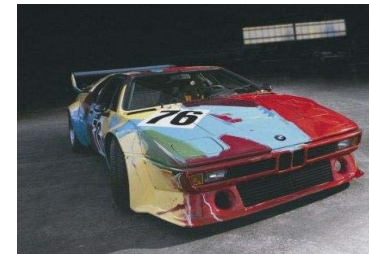


現代アート



- 文化交流はBMWグループの基本理念。
- 世界の文化紹介に従事。
- この30年間、世界中で100以上の企画・イベントを提供。

BMW アート・カーコレクション 個性的な顔ぶれ



BMW アート・カーコレクション 歴史

1975年 アート・カーの誕生:

美術競売人でレーシング・ドライバーのフランス人、エルベ・ポーランが、友人であるアメリカの彫刻家、アレクサンダー・カルダー に愛車、BMW 3.0 CSLのペイントを依頼したことが発端となる。

アートとモーター・スポーツを融合させたこのレーシングカーは、ル・マン24時間耐久レースに参戦した。

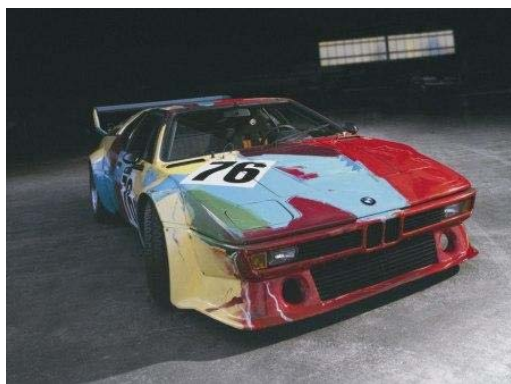
これがきっかけとなり、BMW アート・カーコレクションが始まる。



BMW アート・カーコレクション 歴史

1976, 1977, 1979年
ポップ・アートとアート・カーコレクション

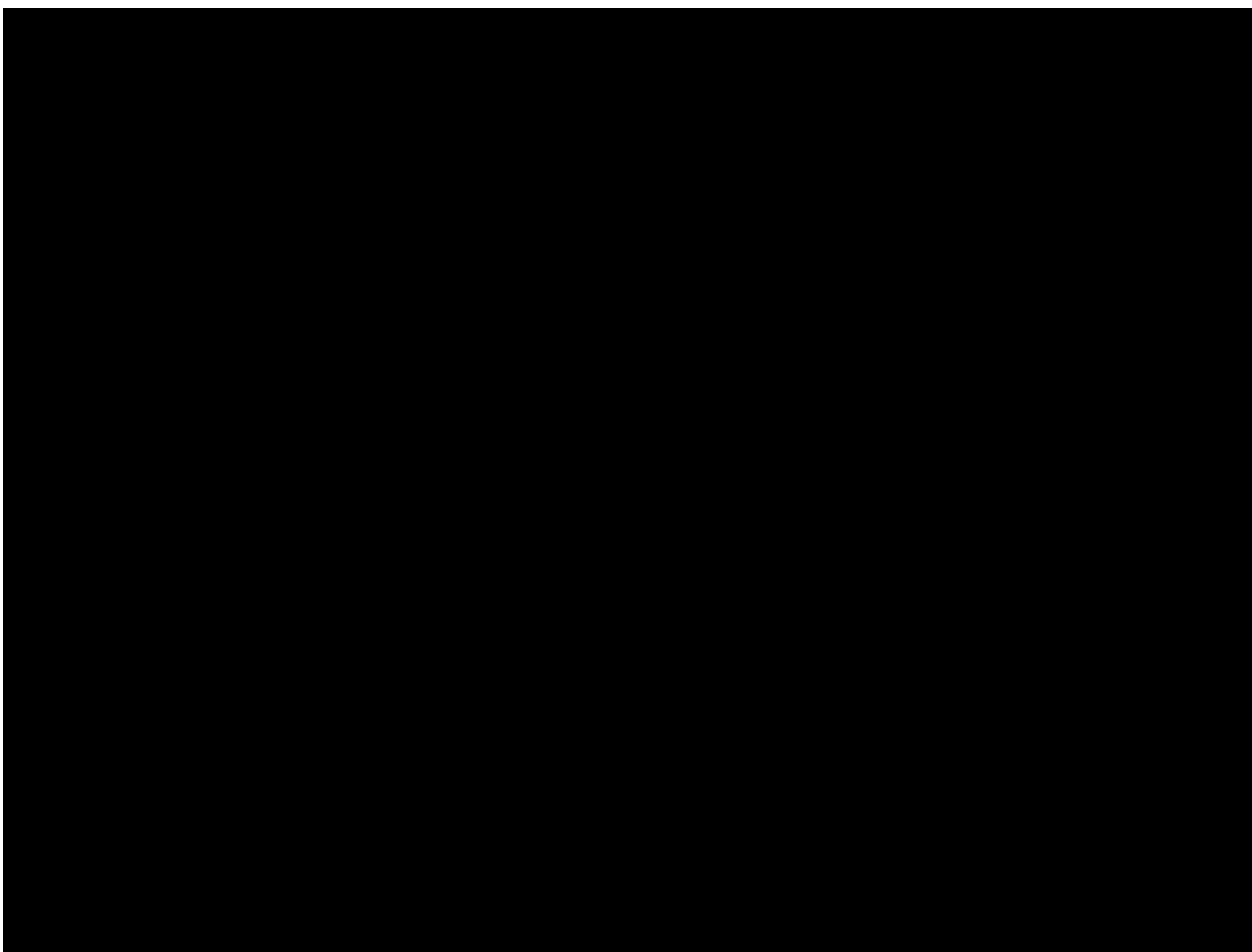
フランク・ステラ、ロイ・リキテンシュタイン、アンディ・ウォーホルがデザインした
BMWレーシング・カー。



BMW アート・カーコレクション

歴代“駆ける彫刻”のレース参戦

高い芸術性とレーシングのトップ記録を兼ね備えたBMWアート・カーの中には、ル・マン24時間耐久レース、ディジョン6時間レース、オーストリア・チャンピオンシップ、AMSCARチャンピオンシップ(オーストラリア)などの有名レースに参戦したものもある。



アレクサンダー・カルダー



フランク・ステラ



アンディ・ウォーホル



ジェニー・ホルツァー

BMW アート・カーコレクション 歴史

1980年代

量販車種もコレクションに:

エルンスト・フック、ロバート・ラウシェンバーグのデザインによるBMWアート・カー
BMW 635 CSi

BMW アート・カーコレクションは世界各国の主要美術館にて展示される。



BMW アート・カーコレクション 歴史

1999年

レーシング・カーへの回帰:

ジェニー・ホルツァーによる15台目アート・カーが完成

PROTECT ME FROM WHAT I WANT
THE UNATTAINABLE IS INVARIABLY ATTRACTIVE
YOU ARE SO COMPLEX YOU DON'T RESPOND TO DANGER
LACK OF CHARISMA CAN BE FATAL
MONOMANIA IS A PREREQUISITE OF SUCCESS
WHAT URGE WILL SAVE US NOW THAT SEX WON'T?



BMW アート・カーコレクション 歴史

2005年

コレクション30周年記念

2006年より

BMW アート・カー世界巡回:

アジア、オーストラリア、アメリカ、日本、ヨーロッパの主要美術館にて展覧会を開催。



第16台目アート・カー: BMW H₂R 最新レーシング・カーについて

- BMW アート・カーコレクションの伝統、レーシング・カーへのこだわりを継承
- BMW H₂R はBMW クリーン・エネルギー・プログラムの代表車種

BMW H₂Rの特徴:

- 12気筒、6リットル・エンジン
- 最大出力 210 kW/285 bhp以上
- 0-62 mph 発進加速性能6秒
- 最高速度300 km/h (186 mph)

BMW H₂R research vehicle has established nine records for hydrogen-powered vehicles featuring 内燃エンジン. On the high-speed track at フランス、ミラマにて



第16台目アート・カー: BMW H₂R 新鋭アーティストについて

2005年4月、今後のBMWアート・カーコレクションを議題にした国際キュレーター評議会にて、オラファー・エリアソンが選出される。

国際審査員:

Bruce W. Ferguson, コロンビア大学(ニューヨーク)学部長

Pi Li, 北京中央芸術学院

Suzanne Pagé, パリ市近代美術館館長

Larry Rinder, カリフォルニア・カレッジ・オブ・アーツ(サンフランシスコ)学部長

Donna de Salvo, アメリカ・ホイットニー美術館キュレーター

Prof. Dr. Carla Schulz-Hoffmann, ミュンヘン国立美術館副館長



ねらい: オラファー・エリアソンとBMWアート・カー

画家ではなく、彫刻やインスタレーションを専門とするアーティストへのアート・カー製作依頼は、BMWがアート・シーンの最先端に着目する姿勢を示している。

ファースト・インプレッション オラファー・エリアソンによる第16台目BMW H₂Rアート・カー

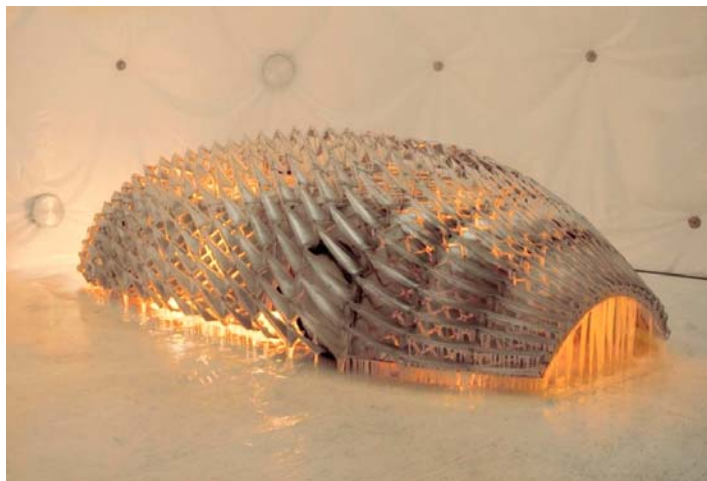


エリアソンはBMWグループ内で研究、開発、デザインを担当する数々の部門と密に連携した。

彼は、このようなユニークなコラボレーションについて以下のように語っている。

「未来のエネルギー源ともなりうる水素はとても興味深く、また、サステイナブル（持続可能な）エネルギーやエネルギー自体への関心といった多様な領域について調べたので、研究的なプロセスだった。これは人々とモビリティ、時間、空間の複雑な絡み合いに焦点を当てている最近の自分の作品と重なることが多い。」

ワールドプレミア開催は2008年5月27日、ミュンヘン国立美術館にて。

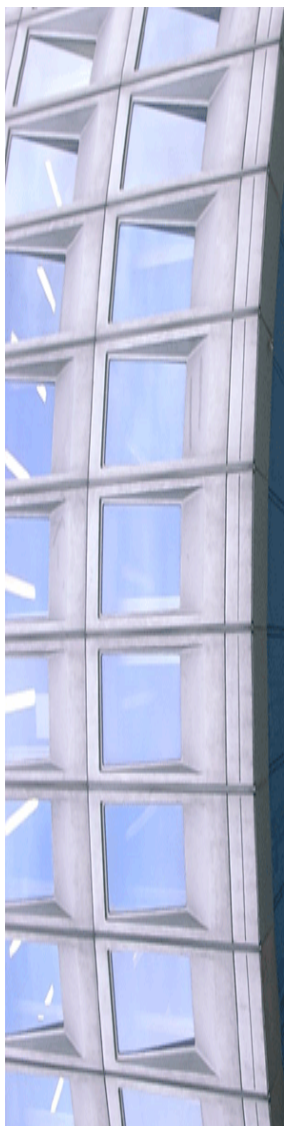


ご清聴ありがとうございました。

www.bmwgroup.com/culture



BMWの文化交流 建築とデザイン



デザインワークス (アメリカ合衆国)



- BMW ライプチヒ工場、ザハ・ハディッド 作 (ライプチヒ)
- BMW 本社、カール・シュヴァンツァー 作 (ミュンヘン)
- BMW ヴェルト、コープ・ヒンメルブラウ 作 (ミュンヘン)

アート・オブ・カー・デザイン (ミュンヘン)



デザイン・スタジオ (シンガポール)



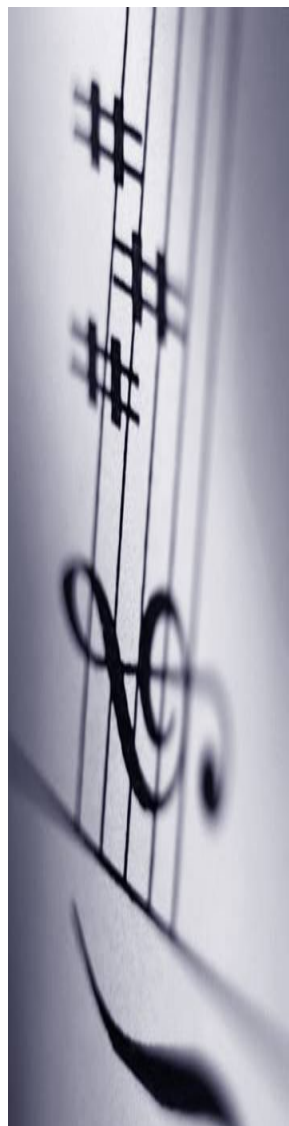
いつまでも色あせることのない気品、美的センスが融け合った文化の調和は
様々なかたちで具体化されている。

建築とデザインに関して、BMWは長年、企業カルチャーを重視しながら、直接
的に強い結びつきを持っている。

アメリカ、シンガポールのデザイン・スタジオ
アート・オブ・カー・デザイン

BMWの文化交流

クラシック・コンサート



流行に流されない、魅力的でクオリティの高い芸術を扱う責任が、“本物”の文化の紹介につながる、と考える。

長年聴き継がれてきた本物の芸術。

さらなる特徴として、クラシック音楽は文化を越えて浸透する。

高級オーディオシステムを搭載した BMW のクルマは、クラシック音楽鑑賞に最適。

BMWの文化交流

現代アート

世界巡回: BMW アート・カー・ワールド・ツアー



Premio de Pintura (マドリッド)

Paris Photo (パリ)

Prize of the National Gallery (ベルリン)

貴重な個性が、お金で買えない素晴らしい経験、文化的な豊かさ、才能の尊さを表わす。

現代アートはいつでも個性的。

今までにはない、ユニークなBMWのアートコレクション: BMW アート・カー

第16台目BMW H₂R アート・カー 作家オラファー・エリアソン

- 1967年生まれ、ベルリンを拠点に活動中のデンマーク人アーティスト。
- ニューヨーク・グッゲンハイム美術館やロサンゼルス現代美術館など、有名な公立・私立のミュージアムのコレクションとして作品展示されている。
- 主な展覧会: テート・モダン(ロンドン)、パリ市近代美術館(パリ)
- 最近、一般やメディアから、同年代アーティストの中でもっとも重要な作家として歓迎されている。2006年、ドイツのビジネス誌 *Capital* において現代アーティスト、トップ15名の1人に選ばれる。



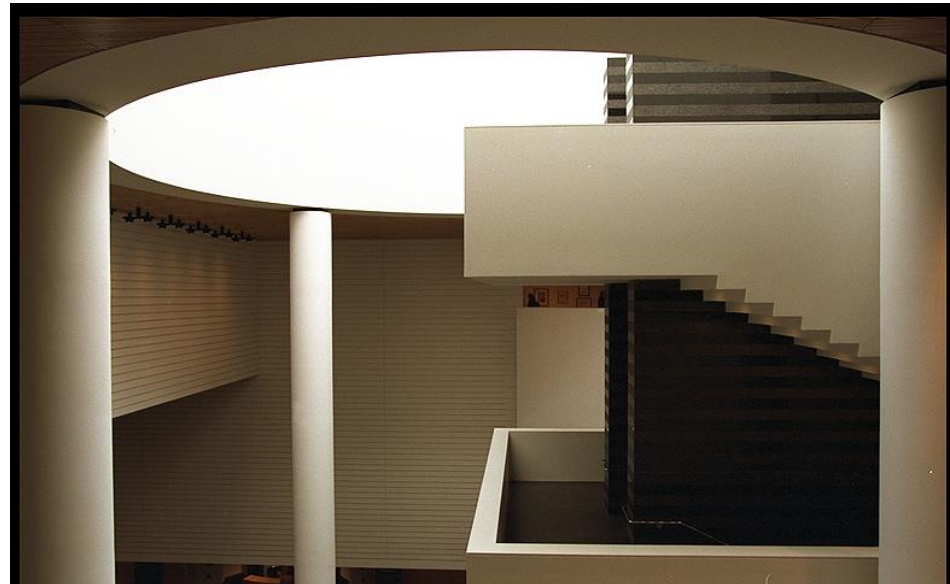
第16台目BMW H₂R アート・カー

”Take your time: オラファー・エリアソン”

サンフランシスコ現代美術館 (SFMOMA)

- アメリカで初のエリアソン作品調査: 1993年から現在まで。
- 回顧展ではエリアソンの多彩な創作活動が紹介された:
彫刻、写真、臨場感ある、大スケールのインスタレーションを網羅。
- 美術館の鋼鉄トラス橋を包む、万華鏡のようなトンネル が新たにコレクションとして加わった。
- 芸術、科学、自然環境を融合させたオラファー・エリアソンの作品は日常の感性を研ぎ澄ませ、今までにない多感覚アートを提示する。
- 温度や湿度、匂いや光といった五感に訴える要素を作品に取り込みながら、エリアソンはアート鑑賞＝受け身、という通念を覆し、観客を参加させることにこだわっている。

SFMOMA



BMWアート・カー ワールドツアー2006-2010

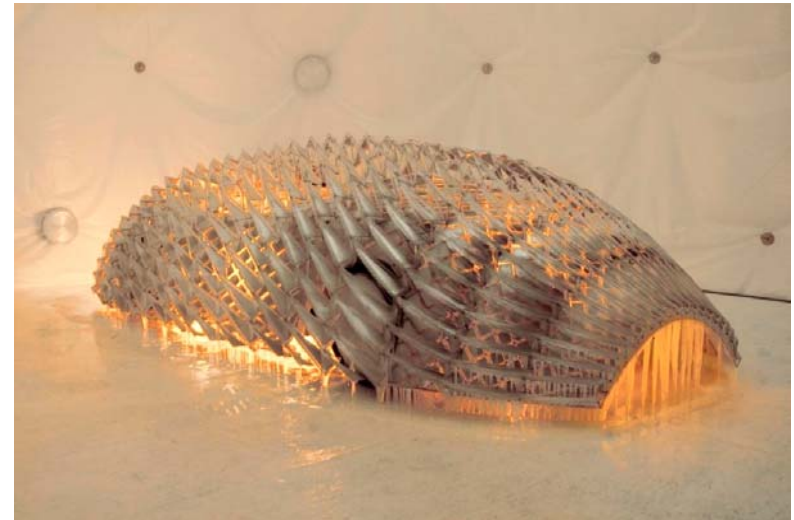
第16台目BMW H₂R アート・カー

- Weiterführung der Renntradition der BMW Art Car Collection.
- Der BMW H₂R ist ein integrativer Bestandteil des BMW CleanEnergy Programms.

Technische Daten:

- 12-Zylinder N73H, 6-Liter-Hubraum
- Motorleistung mehr als 210 kW/285 bhp
- beschleunigt von 0-62 mph in sechs Sekunden
- Höchstgeschwindigkeit über 300 km/h (186 mph)

Das BMW H₂R Testfahrzeug hat auf der Rennstrecke in Miramas neun Rekorde für Hydrogen-betriebene Fahrzeuge aufgestellt.



BMWアート・カー ワールドツアー2006-2010

第16台目BMW H₂R アート・カー



Ausstellung im San Francisco Museum of Modern Art vom 05.09.2007 – 13.01.2008

- Erster Überblick in den USA über Eliasson's Arbeiten von 1993 bis heute
- Total media impressions = 42,309,859



Pressestimmen (Auswahl):

「サステナビリティと代替燃料を推し進めようとするBMWの企業姿勢が表れた、非常に宣伝効果のある展覧会。」 *The New York Times*, 2007年10月24日

「凍てついた水素自動車でもって、BMWは地球温暖化を指摘する。」 *International Herald Tribune*, 2007年10月24日

「環境マーケティングは新しいブランド・ターゲットとなる。新鋭インスタレーション・アーティスト、オラファー・エリアソンの作品は芸術意識と環境意識が融合した、カスタマイズ・カーだ。」

Artnet, 2007年9月4日

“Unsere Welt hofft BMW mit dem Hydrogen 7 bewahren zu können [...] Der Besuch der Ausstellung lohnt sich. Denn der Künstler des 16. BMW Art Car durfte die kurze Leine, mit denen seine Vorgänger noch an die BMW-Karosserien gebunden waren, auf radikale Weise kappen.“ *Autofocus*, November/Dezember 2007

AP Associated Press

**THE
INDEPENDENT**

artnet

San Francisco Chronicle

「実験的な水素自動車を目の前にして、エリアソンは自分の解釈のもとに、それを再構築させた。」

Intersection, 2007年秋

Positive Berichterstattung für BMW CleanEnergy / 16. BMW Art Car in *Economist*, *ArtInvestor*, *The Independent*, *Spiegel*, *Autodrom*, *Vanity Fair*, *Auto Revue*, *Weltkunst*, *Art Review*, *DIE ZEIT*, *Stern*. など。

BMW アート・カー ワールド・ツアー2006-2010.

16. BMW Art Car von Olafur Eliasson.

Weltpremiere 16. BMW Art Car von Olafur Eliasson „Your mobile expectations: BMW H₂R Project“

Kooperation zwischen AK-4 und VZ-31

27.05.2008

ca. 19:00h: Feierliche Eröffnung (u.a. Rede Dr. Reithofer angefragt)

ca. 20:30h: Galadiner im Museum für ca. 100 internat. Medienvertreter, VIPs

- u.a. Grußwort Dr. Reithofer
- Begrüßung des Künstlers, Generaldirektor Pinakothek der Moderne
- Einladung der Jury
- Einbindung „Art of the Car Design“

28.05.2008

Pressekonferenz, Vernissage, wahlweise Kultur- bzw. CleanEnergy Programm

